様式第１号（第１０条関係）

2023年度業務実績報告書

提出日　　2024　年　1月　17日

１．職名・氏名　助教　　岡田　恭子

２．学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 平成29年3月24日

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 老年看護援助論（2単位）2年次
②内容・ねらい（自由記載） 高齢者によくみられる疾患を理解し、心身の加齢変化の特徴および家庭や社会における役割を踏まえたアセスメント、高齢者の強みを活かした看護の実際を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記載） 具体的な看護について、学生が想像しやすいように実習中の先輩学生や教員の関わりの実際場面を意図的に数多く活用し、高齢者の反応が理解しやすいように工夫した。授業の始めに小テストを実施し、知識の整理や理解が深まるようにした。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 セルフケア支援論（2単位）2年次
②内容・ねらい（自由記載） 慢性疾患の特徴や慢性疾患を持つ患者の健康障害を理解し、慢性的な健康障害をもって生きる人に看護を提供するための知識・技術を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記載） 疾患の理解と看護を結び付けて理解できるよう解剖生理や病態の復習を取り入れた。疫学や社会背景についても講義し、退院後の療養生活を見据えた具体的な看護について理解しやすいように工夫した。授業の始めに小テストを実施し、知識の整理や理解が深まるようにした。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 老年看護学演習（1単位）3年次
②内容・ねらい（自由記述） 高齢者に起こりやすい健康問題を理解したうえで、複数の疾患に罹患した高齢者の事例を活用して、治療経過をふまえた各段階におけるアセスメント、看護計画の立案から実施までの過程をグループワークや演習方式で学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 新型コロナ感染予防対策を十分に行った上で、学生が効果的に高齢者体験や技術習得できるような方法や手順を考え実施した。また、実習で実際に受け持つことの多い大腿骨頚部骨折患者の看護過程の展開を行い、事例を通して学びが深められるよう工夫した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 老年看護学実習　（4単位　毎年開講）3年次
②内容・ねらい（自由記述） 多様な価値観と多様な健康問題をかかえている高齢者を身体的・生活的・精神的側面からアセスメントし、これまでの人生を尊重してもてる力(強み)と権利を擁護する視点、退院後の生活を考えた視点を視野に入れた看護過程展開能力を学習し、老年看護特有の実践能力を修得する 施設の目的の基づいた看護師の専門的役割と多職種との連携について理解し、家族支援も含め高齢者の生活の質の向上を目指した援助について看護過程の展開を通して学ぶ

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
講義で学習した知識、技術を臨床で統合して活用することで対象の理解を深め、看護を展開できるよう取り組んでいる。対象者の個別性に即した看護を認識できるようなアセスメントの方法や、 看護実践について学生の特性に応じて指導を行った。施設実習は新型コロナ感染拡大のため受け入れ中止となったため、認知症施設実習で学習する内容と同程度の内容の演習を計画し実施することができた。紙上事例を基にした看護過程の展開やロールプレイによる看護計画の実施、評価を行い実践に繋がるよう工夫した。動画や外部講師(認知症認定看護師、OT)による講義によって老健やデイケア・認知症専門デイケアについての理解も深めた。様々な意見や考えをまとめ学びが深められるようグループワークを多用し、グループメンバーも複数回変更した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
老年看護発展セミナー（1 単位）4 年次

②内容・ねらい（自由記述）
介護老人保健施設における、入所から退所に向けた支援システムを支援者側の視点で学び、そこで生活する高齢者側の視点に立った問いや疑問から支援システムの課題を考える。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
新型コロナ感染拡大のため、介護老人保健施設での実習が難しくなったため、1 日のみ 1 施設において講義と各専門職へのインタビューを実施した。実習前後においてグループワークと模造紙によるまとめと発表を行い、要支援高齢者とその家族を支援するために多職種がどのように連携を図っているかを知り、その中での看護職の果たす役割について学びが深められるようにした。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（3 単位）4 年次（平成 30 年度～）

②内容・ねらい（自由記述）
科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
今年度は 2 名担当し、研究に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。学生が明らかにしたいと考えることを大切にし、計画的に進められるよう関わった。また、主体的に行えるよう計画に沿って研究や統計に関するテキストを提示した。

(2)その他の教育活動

内容

4．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）
介護老人保健施設の看取りケアにおける介護職との連携・協働と課題 －看護職への意識調査から－日本エンドオブライフケア学会誌第 7 巻 1 号掲載（2023 年 3 月）

【1 本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

⑤その他の公表実績

【　本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講　（タイトル名、開催場所、開催日時）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科　科内委員 　親睦会、卒業研究 　オープンキャンパス 2023 オンライン交流会企画・開催　2023 年 8 月 27 日
(3)学内行事への参加
福井赤十字病院　看護研究指導(2023 年度) 入試説明会（美方高校）2023 年 7 月 6 日
(4)その他、自発的活動など
第 21 回 JANS セミナー「看護実践力を高める DX の今とこれから：データ・デジタル技術の戦略的活用のヒントを学ぼう」オンデマンド配信：2023 年 3 月 29 日～5 月 31 日 2023 年度のハラスメント防止に関する教職員向け研修会「性の多様性の基礎知識とセクシュアルマイノリティの困りごと」令和 5 年 5 月 23 日 京都科学　オンラインセミナー「After コロナも SCENARIO と共に」　第 4 回「シミュレーションを楽 SIM（たのしむ）～SCENARIO を使ったシミュレーション編～」令和 5 年 5 月 15 日
第 33 回日本老年学会総会、日本老年看護学会第 28 回学術集会（合同開催）令和 5 年 6 月 16～18 日 日本エンドオブライフケア学会第 6 回学術集会　参加(オンライン)　令和 5 年 9 月 16 日･17 日 第 43 回日本看護科学学会学術集会　参加　令和 5 年 12 月 9 日・10 日